

こどもタウンミーティング 高校生の部 (要旨の報告)

日 時：令和7年11月8日（土） 17時00分～18時15分

場 所：シリウス6階生涯学習センター607会議室

テ ー マ：市政全般

参加人数：3人（市内在住または在学の高校生）

出席者：古谷田市長、マーケティング課長・広聴係1名

市長挨拶、オリエンテーション後、参加者から意見聴取。

【参加者】

- ・高校生になってから帰宅時間が遅くなり、自宅周辺がとても暗いと感じている。
- ・遅い時間でも、大通りは街灯があり、車も走っているので明るいが、住宅地に入ると街灯が少なくかなり暗い。
- ・暗いとカーブミラーでは安全確認ができないため危ないと感じている。
- ・私が小学生の頃は、毎日のように外遊びをしていて、公園に行けば誰かしらいて遊べるのが当たり前だったが、今は公園で遊ぶ子どもが少ないことが気がかりである。
- ・コロナ禍を経て変わったように感じる。

【市長】

- ・防犯灯の新設要望については、地域の自治会が取りまとめて、市に要望をあげてもらっている。
- ・設置要望のすべてには対応できないが、自治会の皆様には、日ごろから防犯だけでなく様々な形で市政に協力をいただいているので、できる限りの対応をしている。
- ・具体的な場所を教えていただきたい。

【参加者】

- ・大和自動車学校の西側（深見西13号）が暗いと思う。
- ・交差点は特に見通しが悪い。

【市長】

- ・関係課に伝える。
- ・大和市は自転車が関係する事故が多く、私が会長をしている大和市交通安全対策協議会を通じて警察と連携した交通安全啓発を行っているので、引き続き、啓発に力を入れていく。
- ・子どもの外遊びについては、「大和市子どもの外遊びに関する基本条例」を平成29年に制定しているが、ご指摘のような状況も見受けられる。
- ・私が子どもの頃は、真っ暗になるまで外で遊んでいた。
- ・中学生の頃にファミコンが出て、夢中になったこともあるので、スマホやゲ

ームが楽しい気持ちはわかるが、身体を動かさなくなる、動かせなくなるのは気がかりである。

- ・そこで、身体を動かす楽しさを知ってもらうために今年度からパイロット校で「放課後児童のエンジョイスポーツ」という事業を開始した。
- ・毎回、50人くらい集まってくれて、皆でスポーツすることを喜んでくれている。
- ・経験がなくてもできること、投げる球を打てなくても、ティーボールなら打てる、という楽しさを知ることを重視している。
- ・遊び方、身体の動かし方を教えてあげれば、楽しめるようになるので、そういった環境を作っていくみたい。
- ・昔は子どもが多かったので、近所のお兄ちゃんお姉ちゃんと一緒に遊んでいて、わからないことも教えてもらえる環境があった。
- ・今は子どもが減って、そういう環境も減っていることも、外遊びが減っていることにつながっていると思う。
- ・「放課後児童のエンジョイスポーツ」が、外遊びや身体を動かすきっかけになるように、引き続き、取り組んでいく。

【参加者】

- ・今の意見に関連して、私も気になっているのが、小学校低学年の子どもたちが、公園などでゲームをしていることである。
- ・身体を使って遊ばないのも問題ではあるが、ゲーム機を壊したなどのトラブルがあると、妹から聞いている。
- ・また、クロームブックの使い方も気になっていて、妹は小学2年生だが、夏休みの様子を見ていると、セキュリティの穴を見つけてゲームをしている。
- ・クロームブックはとても便利であるが、キーボード部分を反対側にすればタブレット端末としても利用できて、教科書で隠して操作することができてしまうのでとても気になっている。
- ・自転車の安全について、市内には自転車通行帯がない道路も多く、車との距離が近くギリギリで怖い思いをすることがある。
- ・どうしようもないことかもしれないが、自治会の高齢化が進んでいて、とても憂慮している。

【市長】

- ・自転車通行帯については、道路幅が広ければよいのだが、大和市は狭い道路が多いので、非常に残念ではあるが設けられない場所が多い。
- ・大和市は、東西約3km、南北約9km、約27km²の市域に24万4千人が暮らす住宅密集地が多い市で、県内で川崎市に次いで2番目に人口密度が高い。
- ・大和市の人口は県内8番目、7番目の茅ヶ崎市が約24万5千人、6番目の平塚市が25万7千人となっており、追い抜き追いつく可能性が高い。

- ・狭い市域ではあるが、車、自転車、歩行者、それぞれの安全を確保することはとても重要と考えている。
- ・これまでの大和市は道路に力を入れていなかったが、私は道路整備計画を策定しており、道路によるまちづくりを進めていきたい。
- ・例えば、家や事業所が建て替えをする際に、狭い道路に面している場合は、セットバックに協力してもらう。
- ・道路を広くすることで、消防車や救急車などの緊急車両の通行スペースを確保し、自転車や歩行者の安全確保だけでなく、まちの安全性を向上させる目的もある。
- ・また、道路が広くなれば、将来的には自動運転の自動車が通行できる可能性が高くなる。
- ・路線バスやコミュニティバスは運転手が不足しており、さらなる不足も予測されているので、自動運転など未来志向でまちづくりをしていきたい。
- ・自治会は宝と考えており、自治会の高齢化は切実な問題である。
- ・世界を見ると大規模災害時に略奪や暴動が起きているが、日本は自治会があることで、地域に顔が見える関係が構築できており、お互い助け合う共助ができている。
- ・届いた救援物資を皆が協力してバケツリレーで運び込む姿は、世界から賞賛されている。
- ・自治会高齢化への対応は、先進事例の調査研究などすでに動いているが、効果が表れるまでには時間がかかる。
- ・現役世代、皆さんの親世代のかたは、仕事や育児などに追われており、自治会活動に参加する時間や気持ちの余裕がない。
- ・私たち行政は、自治会の負担を減らす支援をするが、それだけで解決することはなく、自治会の皆さんも先進事例を学んで、新しい考え方を取り入れなければならないと考えている。
- ・自治会は面倒くさいというネガティブなイメージを持たれているので、自治会は地域の役に立つ、自分たちにとって必要なものであるという、ポジティブなメッセージをSNSなどで発信していきたい。
- ・クロームブックの使い方は、ご指摘を教育委員会に伝える。
- ・クロームブックやパソコンは、小さな頃から触れた方がパソコンスキルを覚えると思うか？
⇒タイピングが必修化されていないので、できる人とできない人の差が激しい。
- ・今の子どもたちは、クロームブックだけでなく、非常に便利なデジタル環境の中で生活している。
- ・デジタルは何度でもやり直しができて失敗しない、理解しなくとも答えを探し出すことができる。
- ・私がいつも言っているのは、子どもたちに、失敗する、苦労する、恥をかかせる経験の重要性である。

- ・ 例えば、初めて焚火する場合でも、Y o u T u b e や T i k T o k を見れば、失敗することなく簡単にできてしまうが、人として成長するためには、分からぬところから経験を重ねてできるようになることが大切なことがある。
- ・ G I G Aスクールは国が主導で始まった事業だが、機器の更新など継続していくには地方自治体の負担が必要となっている。
- ・ 財政状況が厳しい現在は特に大変だが、これからデジタル社会が加速する中では継続が必要であり、ご指摘いただいた課題も含めて、よりよい形を目指していく。
- ・ 一方で、自然体験やスポーツも大切であり、大和市では、S U P (スタンドアップパドルボード)などを学べる、マリンスポーツ教室を毎年夏に開催しているので、ぜひ参加してほしい。

【参加者】

- ・ 高座渋谷について、治安がものすごく悪いわけではないが、夜は近寄りがたい雰囲気がある。
- ・ ゆとりの森のスポーツ施設について、個人的に物足りなさを感じている。
- ・ 特に中規模多目的スポーツ広場について、フットサルはよいがサッカーをするには狭いので、広くしてもらえると嬉しい。
- ・ 学校の近くに、森の中を突っ切って行く道があるのだが、夜はとても暗い。
- ・ 駅までの近道なので、早く帰りたいので皆そこを通っているが怖い。

【市長】

- ・ 割れ窓理論といって、1枚の割れた窓ガラスを放置すると、さらに窓ガラスが割られて建物全体が荒廃し、最終的には地域全体の治安が悪化して犯罪が増えるというアメリカの犯罪学者ジョージ・ケリング博士が提唱した理論がある。
- ・ 地域の治安は環境美化の推進が大切と考えている。
- ・ 私が中学生の頃の光丘中学校は、今でいう東京リベンジャーズのような感じで、とても悪かったが、校舎を建て替えたことにより、生徒がとても落ち着いた。
- ・ 高座渋谷は長い時間と多額の予算をかけた土地区画整理事業によって、以前の街並みとは大きく変わっている。
- ・ 高座渋谷駅は南部の要所であり、北部の中央林間駅、中部の大和駅とともに大和市の核になるまちのひとつと考えている。
- ・ 高座渋谷駅周辺の経済発展を考える上では、よい街並みと治安のよさは欠かせない。
- ・ 治安が気になるということは、若者が高座渋谷に集まる可能性を秘めているということにもなるので、警察にパトロールを強化できないか相談してみる。

- ・ゆとりの森の中規模多目的スポーツ広場にあるフットサルコートは、縦長の配置となっている。



- ・横並びに配置がなされていれば、2面を一つにして使うこともできたが、縦長では活用が非常に難しい。
- ・前市長時代、私が市議会議員として、縦長ではなく横並びに配置することを提案したが、残念ながら間に合わなかった。
- ・建設設計画にスポーツに関する有識者がいなかった結果であり、今後はそういったことがないようにしていきたい。
- ・ゆとりの森の広大な敷地を活用する方法を模索しており、私は音楽フェスの会場にできたらよいのではないかと考えている。
- ・綾瀬市側の敷地も合わせれば、大規模フェスもできると思う。
- ・大トリがB'z、ザザンオールスターズ、ケツメイシ、湘南乃風などの超大物で、終演後に花火大会というのが私の夢である。

【市長】

- ・全員に発表いただいたが、時間があと少しあるので、発表した内容のほかに、ご意見があればお聞かせいただきたい。

【参加者】

- ・先ほど、小学生のクロームブックに関する意見について、小さな頃からデジタル環境に触れていると飽きてくると思う。
- ・私たちは、中学生からクロームブックが導入された世代で、高校に入ってもずっと触っている人が多いが、小さな頃から触っていれば、中学、高校の段階で別のこと興味が行くと思う。

【参加者】

- ・それは人によるのではないか。
- ・私は小学4年、5年生くらいからクロームブックがあつたが、部活など別のことに対する興味を持つ人もいれば、デジタルにどっぷりという人もいるので、中毒性はあると思う。

【参加者】

- ・私は小学校6年生までデジタル機器を持たせてもらえたかったので、学校や公園でドッヂボール、遊具鬼ごっこ、缶蹴りなど、身体を使って遊ぶことをやりしていた。
- ・中学生の時にコロナ禍となり、自粛期間に初めてスマホを持つ人が多く、クロームブックの導入にタイミングも重なったので、そこから部活など身体を動かす人と、デジタルに熱中する人が、二極化したと感じている。

【市長】

- ・市として条例を制定しているので、外遊びを推奨していきたい。
- ・小学生は、外遊びやスポーツをしている子と、あまりしていない子の体力の差が非常に大きいが、中学生になると部活で身体を動かす子が増える。
- ・大和市は部活加入率が約7割で、他自治体と比べると高い。
- ・クラブチームに入っている子も含めると9割近いということである。
- ・私は小学生の外遊びやスポーツができる環境をもっと作っていきたい。

【参加者】

- ・私は厚木市民で、高校で大和市へ来るようになったが、“これ”という祭りやイベントが無いと感じている。
- ・厚木市は「あつぎ鮎まつり」が有名で、市外から多くの人が訪れるので、大和市でも花火大会があったら良いと思う。

【市長】

- ・私も「あつぎ鮎まつり」の花火が好きである。
- ・厚木市は財政が豊かで、市域も広く企業が活用できる広い土地も多く、30年前から企業誘致に力を入れてきた結果、法人市民税収が多い。
- ・人口は厚木市が22万人、24万5千人の大和市の方が多いが、企業数は厚木市が9千社、大和市が7千である。
- ・厚木市には大規模工場も多くあるため法人市民税約70億円に対して、大和市は16億円と、この差が非常に大きい。
- ・企業が多いということは働く人=若者が多く、職場の近くに定住する人も多くなり、市内に労働と生活（衣食住）の好循環が生まれるのである。
- ・大和市はベッドタウンとして人気で、子育て世代が集まっているのはよいことなのだが、職場は市外で、子育てや教育への支出は増加している状況で、厚木市のような好循環はない。
- ・大和市は企業誘致に力を入れていく考えであるが、市域が狭いため、広い土

地を必要としない業種、例えば研究所などを誘致していきたい。

- ・大和市は横浜や東京に鉄道や車で楽に移動ができる、地の利の良さをアピールして企業誘致につなげていきたい。
- ・皆さんはどんな企業を誘致したら良いと思うか？将来働いてみたい業種や会社を教えていただきたい。
⇒企業ではないが、交通の便を活かして大学や専門学校があるとよいと思う。
- ・厚木市には神奈川工科大学もあり、半導体関連企業（研究開発、製造装置、関連部品・材料）が複数存在していることも強みである。
- ・半導体は必要不可欠な分野であり、厚木市はまだまだ発展すると思う。
- ・ご意見いただいたように、大和市にも大学や専門学校を誘致したいが、お伝えしているとおり、市域が狭いので、大学すべてではなく、学部や研究室に限定することで実現できればと考えている。

【参加者】

- ・プロサッカーを観戦できる規模のスタジアムがほしい。

【市長】

- ・大和スポーツセンター競技場、なでしこスタジアムがあるが、客席が少ないのがネックである。
- ・大谷翔平選手のことを、MLB史上稀に見る投打二刀流の活躍が神話級の希少性を持ち、誰とも比較できない唯一無二の存在であるという意味で、一角獣のように現実離れした特別な存在「ユニコーン」と呼ぶように、設立から10年以内で評価額が10億ドル（約1,500億円）を超える非上場のスタートアップ企業（主にテクノロジー分野）を「ユニコーン企業」と呼ぶ。
- ・Sakana AI（サカナAI）という企業は、2023年に東京で創業され、わずか1年足らずで企業価値が10億ドルを超える、日本で創業された企業として最速でユニコーン企業となった。
- ・半導体は熱を持つので物理的な冷却技術が開発されているところに、Sakana AIはソフトウェア（アルゴリズム）の工夫によって根本的な消費電力量を減らすことを目指しており、課題に対する有望な解決策の一つとして注目されている。
- ・Sakana AIの共同創業者兼CTOで、AI研究者のライオン・ジョーズ氏は、自然界、特に魚群などから着想を得た新しいタイプの基盤モデルを開発することを掲げ、日本発の先端生成AI企業として大規模な資金調達を行い、短期間でユニコーン企業に成長させた。
- ・AI技術の開発に関して、日本はアメリカや中国の強い影響下にない中立国で、独立開発に適した環境でグローバル競争の中で独自の立場を確保しやすいこと、日本のエンジニアは国際的に過小評価されていて、コストパフォーマンスが高く協調性に優れており、自然協調モデルの開発に適した精密さと創造性が期待されること、などの他に驚くべき理由があった。

- ・それは、食べ物が美味しい、日本人が友好的、非常に安全な環境であることに加え、日本のアニメやゲームなどのエンターテインメントが大好きで、創造的なインスピレーション源となっており、それを日常的に楽しめ、A I 研究の柔軟な発想を育む要素となっていることが評価された結果である。
- ・私たちにとっては日常のごく当たり前のこと、小学生が一人で歩いて家に帰れる、街にごみが落ちていない、など、日本人が培ってきた日常が、世界から見ると非常に魅力的なのである。
- ・こういった日本の魅力を世界に向けて発信するべきであり、大和市としては、日本のアニメやゲームといったエンターテインメントを発信していければと考えている。
- ・インバウンドを取り込むだけでなく、東京などの大都市で成功している企業や、これから起業しようという人も大和市に取り込みたい。

【市長挨拶】

- ・本日は、色々な話をすることができてとても有意義であった。
- ・大和市を選ばれるまちにするために、柔軟な発想で面白くしていきたい。
- ・世の中には勉強だけでは見えてこないもの、分からぬことがある。
- ・テストの答案用紙を素早く間違えずに書けるようになることも大切だが、人と人が触れ合う中で育まれる人間力はもっと大切である。
- ・何か問題が起こっている人に対し、頭が良い人が、その原因を理路整然と指摘しても解決できず、寧ろ心を閉ざしてしまうだろう。
- ・正しいことを言ったとしても、理屈じゃないと反発されてしまうのである。
- ・こういう時に人の心を揺り動かすのは、思いやりや情熱であり、これは勉強で学べないので、人との関わりの中で育み磨いていってほしい。
- ・皆さんも勉強だけでなく、人間力を磨くことも頑張っていただきたい。
- ・今日は、貴重な時間をいただきありがとうございました。